

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 6年 3月 15日

公表: 令和6年3月20日

事業所名 Liebe とうかだい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		活動時には部屋を使い分けるなどの安全配慮している。	利用人数によっては狭いなどあるため、適時見直していく
	2	職員の配置数は適切である	6	1	人員配置基準を満たしたうえでその日の利用者数に合わせて職員を配置し、安全に支援できるように取り組んでいる。	人数としてはいるが、経験が浅いため更なる人材育成と人材確保に取り組む
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		日々目標設定をし、その対しての考察や改善案など繰り返し取り組んでいる	実行の後、修正ができていない部分があり、密なミーティングなどから業務改善をしていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			今回が初めてであるので、これを生かしていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			未実施のため、今回行っていく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3		未実施のため、今回行っていく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		外部の研修など積極的に参加し日々向上の意識をしている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	定期的にあセスメントを行いニーズや課題を話し合い個別支援計画に反映させている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1		アセスメントシートをさらに活用できるようアセスメントの際、さらに深堀をして聞いていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		利用者に合わせた内容を話し合って計画している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		作成したものは職員間で再度共有し固定化されないように修正などしている。	

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		サービス提供時間によってプログラムを変えて支援を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		集団療育と個別を組み合わせれていないときもあるため、適時組み合わせられるよう支援していく
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼を設けその日の動きについて共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		夕礼を設け子どもの様子や保護者からの情報などを共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			日によってその日の反省ができていないときもあるため、今後はそういった時間確保をしていく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		状況を見て見直しが必要か意識している	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	担当者会議があった際には積極的に参加し子どもの利用状況の共有を図っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		スタッフ間同士で連絡をすぐ取るようにし、関係場所に連絡を急いでいる	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在受け入れてないため不明、今後に向け担当を決め受け入れがスムーズに出来るよう体制強化に努める
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7		送迎時などで随時共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7			現在機会がないため、今後情報共有できるよう仕組みを強化していく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			専門機関に一部のものしか研修など受けれていないので、スタッフが出来るよう機会をさらに設ける
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3		年に1度あるかないかであり、活動などのプランに盛り込んでいく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		子ども部会には定期的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			父母のどちらかによってはできてない部分があるため、共有していただけるように丁寧な説明を心がけていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2		一部の人が行えていないので、研修など行い、保護者様にも支援ができるよう強化していく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		職員間でも相違がないよう打ち合わせている	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		保護者から相談があった場合時間を設け瞬時に対応できるようにしている。 また、対応できる面などを保護者と話し合い連携を図っている。		

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	3		今後は父母会など実施できるよう検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		瞬時に対応できるよう日々取り組んでいる。	迅速に対応できるようにしているが、時間を要する対応もあるため丁寧な説明を心がけ相違がないようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2	活動や行事での様子など定期的にご意見をいただき解放できるように今後協議していく。	
	35	個人情報に十分注意している	7		情報漏洩などしないよう書類など管理に注意している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		連絡を密にとって情報伝達を意識している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7			年に1度機会を設けているが、少しずつ増やしていけるよう計画していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	職員が瞬時に対応できるように普段目に入るところに掲示している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	毎月一回程度避難訓練を行っており、非常災害時への備えを行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	虐待防止委員会を設置し児童虐待防止に努めている。	
	41	どのような場合にもやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	丁寧に説明し了承を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	どの子にアレルギーがあるか確認できるようにし、明記して指示に従っている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		共有できている時と非常勤の方などでできていないときがあるため、ヒヤリハットがあった際は共有できるようミーティングなどを活用していく